こたえ　朝の二十分

月　日　名前

発展（はってん）②

朝の二十分

ぼくは、朝の二十分を読書の時間にすることをすすめます。理由は二つあります。一つ目は、朝は頭がすっきりしていて、本の内ようがよく分かるからです。夜に読むと、ねむくなって、同じところを何度も読んでしまうことがありました。

二つ目は、短い時間でも毎日読めば、たくさんの本が読めるからです。ぼくは先月から始めて、もう三さつ読み終わりました。一日は短くても、毎日つづければ大きな力になります。

たしかに、朝はいそがしいという人もいるでしょう。それなら、いつもより二十分早くねて、二十分早く起きればよいと思います。みなさんも、朝の二十分をためしてみませんか。

1 筆者がすすめているのは、朝の何分の読書ですか。

朝の［二十分］

2 理由の一つ目を、文章の言葉を使って書きましょう。

朝は頭がすっきりしていて、内ようがよく分かるから。

3 筆者は、先月から何さつ読み終わりましたか。

ア　二さつ
イ　三さつ
ウ　五さつ

4 「朝はいそがしい」という人に、筆者はどうすればよいと言っていますか。

いつもより二十分早くねて、二十分早く起きればよい。

おうちの方へ

- 考え（意見）と理由を分けて読むことが大切です。

© きりんドリル kirindrill.com